

ふもんじしいしちゅうもんうつしもくさつ
普門寺四至注文写木札

<概要>

員数	1枚
法量	縦17.5cm×横(上端)107.5cm×厚さ1.1cm
時代	鎌倉時代(正中2(1325)年)

普門寺^{ふもんじ}は、愛知県と静岡県の県境に近接した、豊橋市内の船形山^{ふながた}中に所在する山寺である。平安時代後期から鎌倉時代に最盛期を迎え、当時制作された仏像など多くの文化財を有する。本木札の内容は、船形山の旧境内域だけでなく、山麓の広域な支配地域について、その範囲を示したものである。

本木札は、仁治^{にんじ}3(1242)年に作成された「普門寺四至^(※1)注文^(※2)」を、正中2(1325)年に書き写し、追記を行ったものである。さらに本木札から、応安^{おうあん}元(1368)年に紙へ書き写されている。仁治^{にんじ}3年の原本は現在失われ、正中^{しょうちゅう}2年の本木札も下部が欠損しているが、応安^{おうあん}元年の写しによって全文を復元することができる。普門寺本堂の宮殿^{くうでん}(本尊の厨子^{ずし}、1693年造立)の板壁材として利用されていたもので、1998年に発見された。

四至^(※1) 古代・中世における所領・土地の東西南北の境界を指して呼んだ呼称。

注文^(※2) 古文書の形式の一つ。「一、…」のように事項列挙の形をとる。本木札「四至注文」では、四方の境界の目印等が列挙されている。下の画像では、おおむね左側1/3部分が相当する。右側1/3から中央にかけての部分と、左端2行は、正中2年の追記。



普門寺四至注文写木札 (残存部全体)



普門寺四至注文写木札（残存部全体）

◆普門寺四至注文写木札

権僧正化積

勝之嶺及□（習力）

被仰下旨

実朝二位

無・令知行

衆徒等・栄

戒断堂令田舎

諸堂諸坊无

舩形梧桐院

雖企訴訟不咩（力）

至此時纔境

御判此宮殿

帳是茂一処

舩形山普門寺

岩崎之郷

一、東葉鍋山嶺「

一、南葉赤池与梨小野「

樹池・平五郎塚「

一、西葉傍爾之尾「

鎮衛之松原「

一、北葉霜降岩「

如件、

仁治参年「

右、後々将来証「

正中二（乙丑）三月「